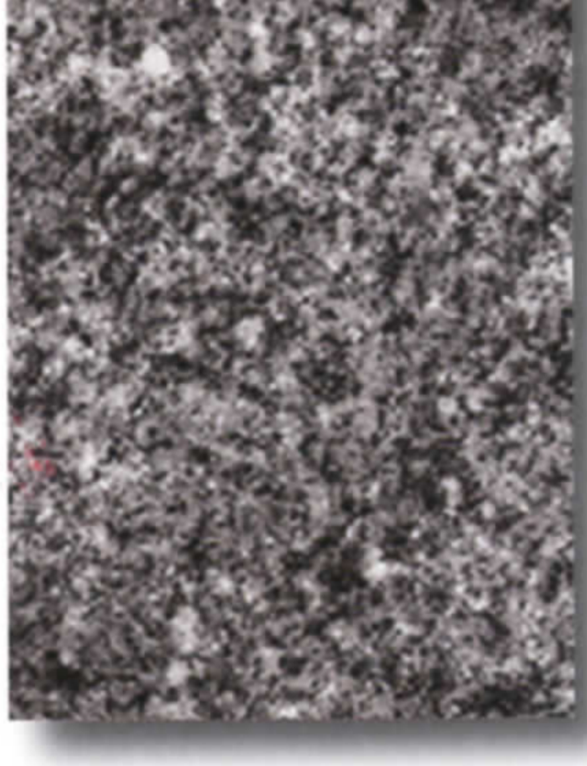
庵治石［四国・香川県産］



世界に誇る御影の最高峰

庵治町の風景

庵治町・牟礼町にまたがる
“八栗五剣山山麓”

最大の特徴は「斑（ふ）」

きめ細かな地肌であるがゆえに風化に強く、磨けば磨くほど艶を増す“庵治石”。その最大の特徴は、「斑が浮く」という現象です。他に類をみない、この特質性と希少性から、世界で最も高価な石として評価されています。

“庵治石”の石肌は磨くほどに濃淡が浮き出て、平坦なはずの石の表面に奥行きを感じさせる二重のかすり模様を見せてくれます。その模様は、高い山々にかすみたなびく雲、また屋島から舞い落ちる桜の花びらにもたとえられ縁起物としても珍重されてきました。

首相官邸の石庭

造形の様子

採掘現場

石の里、千年の歴史

“庵治石”の歴史は非常に古く、平安時代後期から使われ始め、安土・桃山時代には京都男山の石清水八幡宮再興、江戸時代初期には高松城築城や大阪城大改築にも使われたという史実があります。

“庵治石”が全国的に知られるようになったのは、大正時代から昭和の戦前にかけての時期です。採石や加工の知恵と技術、技能は長い歴史のなかで伝統の技として磨かれ、その匠の技は、「天下の銘石・庵治石」とともに「庵治産地」の名を全国に知らしめてきました。

現在に至っても、“庵治石”は首相官邸の石庭や、東京オリンピックの聖火台など、数多くのモニュメント、建築物として、全国各所にその姿を刻み続けています。

産地と石材物性データ

香川県高松市、源平合戦で知られる屋島の東側対岸には、峰が剣の尖のようにそびえ立つ五剣山という山があります。この山のふもと庵治町と牟礼町の町境から採掘される石が“庵治石”です。

正式名称は「黒雲母細粒花崗閃緑岩」といい、主成分は石英と長石。微細な黒雲母と角閃石を含み、それぞれの成分の結晶がとても小さいのが特徴で、水晶と同じ硬度7度の硬さといわれています。

庵治石の見掛け比重
吸水率・圧縮強度

- ■見掛け比重……2.65 t /㎥
- ■吸　水　率……0.15 %
- ■圧 縮 強 度……155.00 N/mm²

万成石［中国・岡山県産］

優美さと雄大さをあわせ持つ銘石

淡く優しい桜色の風合いは、時を経ても変わらない。

永く愛され続ける理由

日本で最も愛される花「さくら」の雰囲気を持つ“万成石”。通称「さくら御影」と呼ばれ、淡紅色の華やいだ風合いは、外国産では感じることのできない本物の品格と高級感を醸し出しています。

また、“万成石”はかわいらしい雰囲気の一面を持ちながら、石質は非常に堅固で吸水率も低く、花と実の両方を持ち合わせた日本の銘石としてブランド化されています。

桃太郎大通り一石碑

桃太郎像（岡山駅前）

採掘現場

永く愛される風合い

優美な石目の“万成石”は、芸能人・歴代首相の墓石や世界的彫刻家たちの作品、歴史上の人物・偉人の像の台座、古くから親しまれる建築の建材としてなど、様々な場所で使われております。

永い時を経ても変わらないその美しい風合いから、多くの著名人・芸術家などが愛する石材として知られています。

産地と石材物性データ

岡山県岡山市（矢坂）で採掘される“万成石”は国内有数の墓石材です。正式には「角閃石黒雲母花崗岩」と呼ばれ、その結晶質は極めて堅固で、美しい淡紅色の表面は艶のりの良さが特徴です。

岡山市の市街地に近い“万成石”の丁場は、ＪＲ岡山駅や岡山空港からのアクセスも非常に便利で、石材業者のみならず芸術家や一般ユーザーなどの見学希望も多く、にぎわいを見せています。

万成石の見掛け比重
吸水率・圧縮強度

- ■見掛け比重……2.62 t/㎥
- ■吸　水　率……0.17 %
- ■圧 縮 強 度……133.72 N/mm²

天山石［九州・佐賀県産］

広く愛される銘石

唐津市七山　日本の滝百選「観音の滝」

佐賀県　唐津市
七山地区“天　山”

石のプロも認めるその品質

その魅力は、国産材の中でもNo.1～No.2を争う吸水率の低さと抜群の硬度からくる艶持ちの良さです。少し紫がかった濃い青味が特長の高級青御影石として大変人気があります。

他の有名国産材と比較しても透明度が高く、青深いその石目は、降雨後や歳月を経ても変色がほとんどなく、日本の風土に適しており、墓石材として理想的です。中でも、本家の採掘元である『天山石材』ブランドは、石屋さんの間では有名です。

採掘現場

愛される理由

従来は主に、九州方面で長く使われていましたが、その堅牢度や艶持ち、色合いの良さから、近年は中国、四国方面や関西圏を中心に人気に火がつき、今では中部方面や関東圏まで幅広く使われるようになっています。地方の銘石から全国区の銘石になった素材です。

産地と石材物性データ

「唐津くんち」や「呼子のいか」、「虹の松原」で有名な佐賀県唐津市（七山地区）で採掘される国内トップランクの墓石材です。

昭和４０年代から採掘され、現在単独の採掘場としては販売量日本一と言っても過言ではないほどの墓石用御影石です。

天山石の見掛け比重
吸水率・圧縮強度

- ■見掛け比重……2.69 t /㎥
- ■吸　水　率……0.09 %
- ■圧 縮 強 度……194.27 N/㎟

真壁小目［関東・茨城県産］

硬質で堅牢な品質の常陸の銘石

加波山の風景

関東、北陸で建墓数No.1の信頼と実績

日本の石材の三大産地といわれる庵治（香川県）・岡崎（愛知県）・真壁（茨城県）の中でも、“真壁石”はその飽きのこない表情、変色・キズが出にくい品質、そしてなによりも豊富な産出量に支えられた品質の安定性において、関東や北陸で多くの石材店・御施主様に支持され続けています。その中でも粒子の細かい「小目」といわれるものは、石英の含有量が多く、堅牢で経年変化にも強いといわれています。

採掘現場

つくばセンタービル

迎賓館（赤坂離宮）

遥かなる歴史

桜川市真壁町や大和地区一帯では、遠く石器時代の遺跡が数多く発見されており、石斧、石刃、石棺等にすでにその利用を見ることができます。その後、鎌倉初期から室町・戦国期にかけての古碑、五輪塔、仏石なども数多く残されているこの時期がこの地の石材業の始まりと伝えられています。

明治以降、その安定した品質から用途はさらに広がり、迎賓館（赤坂離宮）をはじめ日本銀行、三越本店などの有名な建築物にも使われました。

産地と石材物性データ

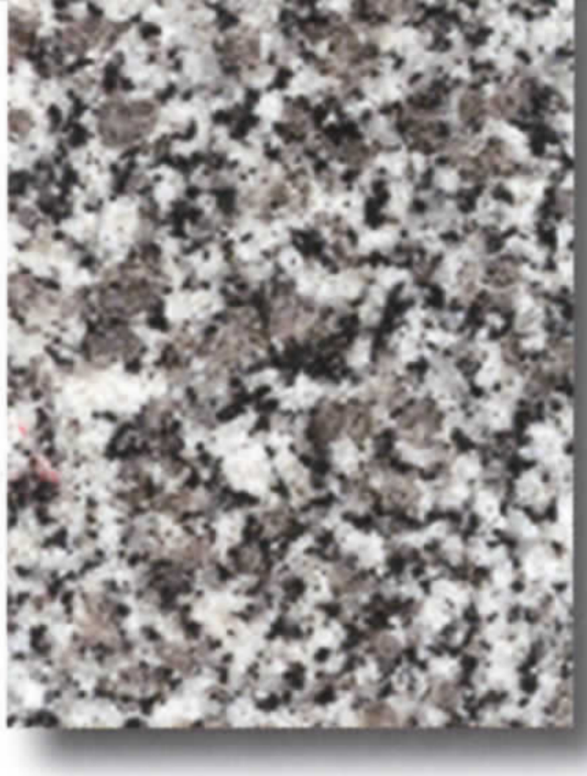
茨城県西部に位置する常陸三山（関東の名山 筑波山、加波山、足尾山）、そのふもとにある桜川市真壁町や大和地区（旧大和村）の一帯に眠る硬質で堅牢な岩石。それが“真壁石”です。

石英・長石・黒雲母からなる花崗岩で、およそ６０万年も前にできたといわれ、明治期までは「こみかげ石」「常陸小御影石」と呼ばれていました。

真壁小目の見掛け比重
吸水率・圧縮強度

- ■見掛け比重……2.638 t /㎥
- ■吸　水　率……0.233 %
- ■圧 縮 強 度……120.00 N/mm²

やさとみかげ［関東・茨城県産］



信仰の山から生まれる銘石

加波山の風景

安心品質と親切価格の融合

茨城県の筑波山地の加波山（かばさん）で採掘される“やさとみかげ”。最大のセールスポイントは安定した供給体制により実現した親切価格と安心品質の融合。石肌は濃い青味を帯び、適度な硬度で加工に適し、古くから石塔をはじめ、寺社建築やモニュメントと幅広く使用されてきました。また光沢のある表面は風雪の劣化にも強く、安定して大材が採れるなど、“やさとみかげ”は厳しい季節の変化にも耐える良質な墓石材です。

採掘現場

彫刻・モニュメント

信仰の歴史

筑波山を最高峰とする筑波連峰。その中、常陸三山の一つ加波山は天狗伝説の残る霊山。山全体が山岳信仰の対象として有名で、修業の山でもあります。山中には多くの神社群や巨石があり神聖な力を感じる場所です。そんな場所で生まれる“やさとみかげ”は供養に適した銘石といえるのではないでしょうか。

産地と石材物性データ

「日本の三大石材産地」の一つ、茨城県西部、真壁地区。常陸三山の一つ加波山には日本有数の採石場が点在し、石材産地“真壁”で生産される「真壁石燈籠」は国の伝統工芸品にも指定されるほど、石材業の盛んな町です。

常陸三山は登山ルートとしても人気があり、近くの足尾山はパラグライダーやハングライダーのメッカとしても有名です。

やさとみかげの見掛け比重
吸水率・圧縮強度

- ■見掛け比重……2.659 t /㎥
- ■吸　水　率……0.2 %
- ■圧 縮 強 度……161.32 N/mm²

稲田石［関東・茨城県産］

日本を代表する白御影石

稲田石 採掘現場

茨城県 笠間市 稲田地区
“石切り山脈”

美しく輝く白さはトップクラス

均一的な柄と明るい色調が大きな魅力の“稲田石”。特に美しく輝くその白さは世界中の花崗岩の中でもトップクラスです。また、“稲田石”は豊富な埋蔵量から安定した供給が可能であり、日本の近代化に合わせるように、迎賓館や日本銀行本店を始め、国会議事堂、東京駅、最高裁判所、広島原爆慰霊碑、国技館、昭和天皇陵など多くの歴史的な建造物に使用されてきました。「日本の歴史」を背景に持つ“稲田石”はまさに、日本を代表する石です。

広島原爆慰霊碑

最高裁判所

採掘現場

国会議事堂

日本最大級の石材産地がお届けする『供養のこころ』

採掘の歴史は、古く江戸時代から石材として利用されてきた“稲田石”。本格的に採掘されたのは明治22年頃からですが、当時から最新式の採掘、加工技術を取り入れ、現在に至るも採掘量、業者数は日本で最大級の石材産地です。伝統技巧と最新の加工技術が融合する一流産地で「一流の石職人」が心を込めて作り出す石塔は、大切な人を供養する皆さんの「こころ」をお手伝いしています。

産地と石材物性データ

古くから日本三大稲荷に数えられる笠間稲荷神社の門前町として、また笠間城の城下町として栄えてきた笠間市。その中でも稲田地区から産出する“稲田石”は、東西約20km、南北約10kmの広大な地域に分布しています。また、隣接する桜川市北部の羽黒地区、南部の真壁地区とともに日本でも有数の採石地、石材加工産地として有名で、香川県高松市庵治町、愛知県岡崎市と並び日本三大石材産地と称されるほど石材業が盛んな町です。

稲田石の見掛け比重
吸水率・圧縮強度

- ■見掛け比重……2.63 t /㎥
- ■吸　水　率……0.22 %
- ■圧 縮 強 度……167.48 N/mm²